

[優秀賞]

「日本とロシアの北方領土」

中標津町立中標津中学校

1年 小崎 顕大

皆さんは北方領土という島を知っていますか。日本固有の島ですが、現在はロシアに占領されています。1945年、ソ連は終戦にもかかわらず8月から9月にかけて北方領土を支配しました。僕の祖父は国後島の出身です。僕は、祖父が国後島から引き揚げてきた幼少の頃の体験談を聞いたことがあります。

ソ連が侵攻してきた時、ソ連兵は人々の民家に土足で上がり込み、銃を突きつけて金目のものを奪い取ったそうです。その時、祖父たちは怖さのあまり、押し入れの中に隠れていたそうです。祖父の父は金目のものをあらかじめ隠していたので、奪い取られずにすみしました。その後、祖父たちの家族8人は9月中旬の深夜、所有していた船で島を離れ、根室にたどり着きました。ですが、船を用意できずに脱出をあきらめた島民もいたそうです。ただ、船を持っていてもすんなり脱出できたわけではありません。祖父の叔父さんは島を出るとき、知り合いに必ず迎えに来ると約束したため、再び船で知り合いを迎えに行きました。脱出の際、荷物を船に運んでいる最中にソ連兵に見つかり、銃撃に遭い、叔父さんは撃たれて亡くなったそうです。このように、脱出する際にソ連兵によって連れ戻されたり、銃撃され亡くなった人もたくさんいたそうです。

では、現在の北方領土の状況はどうなっているのでしょうか。現在の択捉島では生活はとて豊かになっているため、島民のほとんどが島の返還に反対しています。反対している一方で色丹島は択捉島に比べて豊かではなく、返還について半分以上が「仕方ない」という意見だったそうです。ですが、色丹島も開発が進めば返還に反対する人が多くなると思うので、それを僕は心配しています。

しかし、開発するには、経済協力が必要になります。そこで日本は8つの経済協力プランを提案しました。日本からの援助で北方領土問題を先に進めようという計画です。

さかのぼって1991年にソ連側から北方四島交流事業が提案され、翌年からパスポート、ビザなしの交流事業が始まりました。自由な往来の第一歩でした。そして昨年12月、プーチン大統領が来日し、安倍首相と会談しました。この時、日本中が北方領土の返還を期待したでしょう。そこで祖父に「もし返還されたら帰りたいか」と聞いてみました。「この歳では難しいなあ」という答えでした。

元島民の平均年齢は80歳を過ぎています。今から移住できるとなっても、今までの生活環境をすぐに変えることはできないでしょう。終戦から72年、これは北方領土がソ連に占領されてから過ぎた年数でもあります。国民や元島民の期待を裏切らないように、早期解決を願いたいです。